

第8期千葉県生涯学習審議会第5回会議及び  
平成23年度第1回千葉県社会教育委員会議 議事録

平成23年6月2日(木)  
午後2時30分から午後4時35分  
千葉市文化センター会議室Ⅱ～Ⅳ

出席委員(敬称略五十音順)

石川 清	伊藤 昭	井上 玲子	今関 照代
金 哲彦	坂井麻貴子	朱膳寺宏一	関 亮
高田 悦子	福留 強		

出席事務局職員

千葉県教育庁教育振興部長	渡邊 清秋
千葉県教育庁教育振興部生涯学習課長	月岡 正美
さわやかちば県民プラザ副所長	永井 健
千葉県立中央図書館長	高石 卓
千葉県立西部図書館長	江澤 義夫
千葉県立東部図書館長	森田 幸三
企画管理部教育政策課副主幹	堤 郁男
教育振興部指導課指導主事	積田 明雄
教育振興部生涯学習課	
学校・家庭・地域連携室主幹	西沢 峯夫
主幹兼社会教育振興室長	浅岡 裕
社会教育振興室主幹	森本 豊
同 副主幹	高橋 正名
同 社会教育主事	鵜澤 智
同 社会教育主事	鶴岡 敦
同 社会教育主事	高蝶 武
同 社会教育主事	久我 康之
同 社会教育主事	山内 一浩
同 社会教育主事	岡野健一郎
東上総教育事務所社会教育主事	長谷川裕一
南房総教育事務所社会教育主事	高橋 政人

- 1 開 会
- 2 教育委員会挨拶（渡邊 教育振興部長）  
会長挨拶（福留 生涯学習審議会会長・社会教育委員会議議長）
- 3 報 告
  - （1）生涯学習課の主要事業概要について
  - （2）東日本大震災の被害状況及び対応について
- 4 議 事
  - （1）平成23年度社会教育関係団体に対する補助金の交付について  
〔資料を事務局から説明〕

議 長

事務局から補助金に関する説明があったが、質問・意見はあるか。

委 員

特別枠のことで、ユネスコ協会の予算書によると、県補助金が20万円に対し、開催地である成田市と成田ユネスコ協会が95万円支出している。開催地がはるかに多額を補助している。成田市にはどのようなメリットがあつてのことか。市の判断ではあるが、そのことは議論されたか。

事務局

関東各県の補助金を参考に、20万円の交付を計画した。過去の開催市では、5万円という年もあり、開催県により状況が違っている。

以上の質問等のあと、委員に諮り承認を得る。

- （2）（仮称）千葉県立図書館の今後の在り方について

議 長

続いて、県立図書館の今後の在り方について。これは、これまで継続して審議してきたもので、今回が最後になる。では、事務局から説明を。

〔資料を事務局から説明〕

委 員

今後の在り方を通読して、千葉県の今の現実を踏まえた上で、考えられる一番良い考え方を打ち出された。県立図書館と市町村立図書館の役割はすでに明確にはなっているが、それをますます明確にしていくということや、4館体制でなく3館体制を維持してやっていくということ、たとえば東部図書館は、文学や歴史、西部図書館は自然科学の図書や新聞雑誌を主に収集している、中央図書館も含めて、同じ本を買わないようにしているという現実もあり、地域の市町村立図書館、たとえば我孫子図書館には、西部図書館の方が定期的に訪問し、課題や事情をつかんでいてくれる。今後とも、3館の県立図書館と市町村立図書館がそれぞれの役割を明確にしてよりよく機能していただければ良いと思う。

## 委員

全体を読ませていただき、精緻に出来ているという印象を持った。基本構想の見直しから始まり配列も良い。現状と課題や役割機能、そして指定管理ではなく直営でいくということが明確に記載されており、細かいところまでよく出来ているという印象を持った。最後の施設の改修で、中核館としての中央図書館の改修の問題が出ているが、たとえば耐震診断のI S値だが、安全値は0.6以上であるが、中央図書館は0.25である。大震災の後だからというわけではないが、ここに書いてあることを具体的に進めていくためには、中央図書館の整備は、まさしく喫緊の課題という認識を強く持った。

14ページから15ページに学校図書館との連携が書かれているが、「学校図書館との連携を更に強化するとともに子どもの読書活動に携わる人や関係機関との連携協力により、子どもの読書活動を推進します。」や15ページの(2)学校図書館との連携・支援も書かれていて非常に有難いことである。ヤングアダルトサービスも高校生の立場からすると有難い。

学校図書館との連携について感想・意見を述べさせていただく。学校図書館の充実、読書教育の推進、教員の資質向上を考えると、これは図書館だけの話ではないが、学校図書館の運営相談支援もあるし、学校図書館や読書教育に関する情報の収集・提供、読書活動や学校図書館活性化のための指導助言、調査研究、職員研修のためのプログラムの開発とか、学校図書館を活用した事業の先進事例、研究開発、学校図書館ボランティアの養成等いろいろと考えられる。こうした総合的な具体策については、県立図書館だけの範囲でなく、総合教育センターや指導課とチームを組んで枠を超えてやっていく、いまでもやっていると思うが、そうしたことが読書県ちばの推進に結びつくと思う。

## 委員

ただいまの県立図書館の今後の在り方の説明で、3つの県立図書館がどういう役割で今後運営をしていくかが良くわかった。子どもの読書活動や学校図書館との連携に興味がある。学校と市町村立図書館の連携が以前と比べると密になってきていて、いろいろなサービスもやってくれるようになってきている。子どもの読書活動の推進はとても良いことである。正確なデータはないが、千葉県は朝の読書活動が盛んで、いろいろな学校が取り組んでいる。子どもたちは読書が好きで、集中して読んでいる。私の学校では、保護者や地域のボランティアが読み聞かせをしており、それも子どもたちは大好きである。今、心配しているのは家庭での読書が進んでいるかどうかであり、この「千葉県立図書館の今後の在り方」にも書かれているが、家庭での読書の啓発を県全体の取組としていただきたい。

もう一つ、この「千葉県立図書館の今後の在り方」には直接関係はないが、学校図書館に司書がいるかどうかで子どもたちの読書活動に違いがある。学校には司書教諭が1名配置されてることになっているが現実問題としては学級担任をしながらであるので本の整理すらままならない状況である。保護者のボランティアが学校図書館に昼休みにいてくれるだけで利用度も違う。お金のかかることであ

るが、学校図書館司書が何校かのかけもちでも配置されると良いと思う。

#### 委員

これを拝見して、本当によく出来たものだと思っている。今までこれだけ完璧に近いものはないと思っている。ただ、一番気になるのが、最後の5～6年毎に必要なに応じて見直していくということである。民間だと、5～6年毎ではなくて、1年目はこれだけの項目の中でこれだけ進歩したとか、2年目ここが改良されたとか、短期的にも中期的にも、毎年多少のチェック機能をもって進歩させるのが民間の発想である。博物館でも毎年の重点施策などを考えて毎年チェックをして少しでも良いものにしていくという考えでやっている。

#### 議長

事務局で何かあるか。

#### 事務局

ご指摘のとおり、実際に施策を実施していく場合は、毎年度チェックして次に繋げていくのは必要だと思う。この5～6年毎の見直しは、社会の変化やIT化などの進歩が急激なため、5～6年先に今日、示した「千葉県立図書館の今後の在り方」を改訂する予定であることを述べたものである。

#### 委員

現在の県の財政的な問題等を考えると、改修やIT化とか収蔵能力の問題とか、やりたいと思っても出来ないということをチェックすることによって知らしめることが大切。これを、5～6年先にできないということでは、生涯学習課は何もやってないと言われるのを避けるために言っている。チェックしていくことで、やりたくても財政的な問題などでできないでいるということを知らしめるのが大切という趣旨である。

#### 委員

この「千葉県立図書館の今後の在り方」は、きめ細かく配慮されていて、良く出来ていると思う。利用者の視点から発言させてもらおうと、この「千葉県立図書館の今後の在り方」は、より多くの人に利用してもらおうことを考えて作られていると思う。たとえば誰に来て欲しいのか、どんな人に利用してほしいのかを考えると、専門的資料や千葉県関係の資料は県立図書館にたくさんあると思うが、それ以外のものを考えた時に、地元の市町村図書館やインターネットで24時間中、本や資料が手に入る中で、図書館にプラスアルファの何かが必要なのではないかと。たとえば多目的なスペースを整備して、定期的に子ども対象の読書啓発のイベントを行うとかの工夫が必要なのではないかと感じた。

## 議 長

子どもという言葉から、中学生の姿が見えてこない。中学生と高校生を一緒にすると、中学生は進んで読書をするのか多少気になる。

また、大変重要な点は、県内の図書館関係者が見守っているのは、県立図書館が指定管理になってしまうのではないかとということで、そうなると県内図書館への影響は大きい。しかし、やらないという強い姿勢が書かれているのは嬉しい。今後の見直しや他の施設や他の県の流れから、意見が来ないとも限らない。それでも指定管理ではなく直営で行うには、県民がそれを受け付けない環境づくりが必要で、今後のソフト面でそれを実現するか我々もどう応援していくのが重要で課題である。

## 委 員

全体的な感想として非常に良くできている。この方向性は是非これで進めていただきたい。特に、10ページの県立図書館の役割と機能の1市町村立図書館の充実のための支援強化の(2)イ、ウと(3)アは市町村としては待ち望んでいると思う。また、未来を担う子どもの読書活動の推進においては、現実的にはボランティアでやっていただいている方が多いと思う。そういう方が県全体としての位にいるのかという把握をし、ボランティアの輪がさらに広がるような活動を推奨していただけるとありがたい。障害者サービスでの情報面でのバリアフリー化も重要。IT化の推進も重要であるが、携帯電話等が普及し、コミュニケーションのツールは多くあるのに、子どもたちの相対したコミュニケーションの取り方がうまくなっているのかという逆である。一時、ゲーム脳などと言われたが、思考の部分が退化して反応の部分が強くなる。電子書籍もダメとは言わないが、やはり紙媒体の文字を見ることが重要な意味を持つてくるのではないかと、どこかに入れられたら良いと思う。たとえば名作をきちんと読ませるということも必要。デジタル化も保存スペースの面が効率化されて良いが、アナログ的なものの考え方も大切だと思う。IT化時代の図書館の考え方も必要だが、紙媒体の資料を見るという作業も大切である。

最後に、指定管理者の問題であるがこれについては、もし県が指定管理になると、市町村にとっても、人員削減でさまざまな機関の職員を減らしていかなくてはならない中で本来の機能が果たせるのかという問題が発生するとともに、指定管理者、委託という考えが出てくる。しかし、委託してはいけない施設、守らなければならない施設というものもあるので、今回は心強い話だと喜んでいる。

## 委 員

私も民間ですが、素晴らしい内容だと思うがこれをやるには膨大な経費と時間がかかると思うので投資が必要だ。基本構想なので、あれもこれもみんな入っているのは仕方ないが、優先順位を決めてやっていく方が良いと思う。その中で、中央図書館のIS値が0.3を切るというのは、倒壊の危険があるので、優先順位は高くして良いのではないかと。震災ハザードマップなどができて、中央図書館

が危険な施設と掲載されてしまうと非常にマイナスのイメージになるので、その時にはきちんと予算措置をしていると説明できるようにして欲しい。また指定管理も問題であるが、私もスポーツ施設の指定管理の委員を務めたことがあるが、スポーツ施設の指定管理はかなり進んでいる。スポーツ施設は利用者から利用料金を取っているのに、利用料金は少し高くなるがその分サービスが向上した。図書館はもともと無料で運営しているのに、県からのランニングコストでやっていくしかないのかと考えるのが難しいのかと思う。しかし、いずれ公共施設の指定管理が進んでいった場合、図書館の指定管理はあまりないようだが考えておかなければならない。

#### 委員

いろいろなことが盛り込まれているので、どこから手を付けるか、作業に時間がかかるので優先順位が必要ではないか。また、IT化についていけない人たちのためにもアナログを残しておくことも必要。子どもの活字離れも指摘されているが、気になること、将来のことを調べたい時に図書館が利用できたら良い。どこから手を付けるか、どこに重点をおくか、予算をどうするかを明確に細分化すると良いのではないかと考える。

#### 委員

一番心配しているのは指定管理、首長部局への移管である。大震災では多くの公民館が避難所となっていた。住民に公民館が必要と求められているか、それにどう応えるかが公民館が地域で生きていく道だ。避難所の公民館でもやればできることはあり、それをコーディネートするのが公民館職員である。何もしない公民館は指定管理になってしまう。図書館の方が公民館よりも指定管理に持つていくのが楽かもしれないという話も聞いたことがある。住民になくしてはならない、指定管理者にはできない図書館というもの、たとえば学校図書館との連携、福祉施設のケアとか、根を張っていくこと等は、指定管理者では難しく、県直営の図書館司書でなくてはできない仕事をケアしていくことが大切だ。

#### 議長

ひとつおき皆さんの意見を伺った。子どもの論語を読む会に参加したことがあるが、100人位の子どもの大人が口調を一生懸命真似ている。言葉が良くわからないのにやれば出来ると思った。かつて北海道の剣淵町ではふるさと創生一億円の半分で絵本を買った町で、わずか4000人に足りない小さな町で、600名が参加する絵本を読む会がある。こういう市民活動が図書館を育てた。結局は自治体の姿勢ということになるが、県立図書館も日常行う直接サービスするところと各市町村の図書館を支援する役割があり、結局は自治体がやらないとどうしようもないが、こういう運動を意を配って進めていく必要である。

以上、ひとつおき皆さんの意見をいただいたが、非常に良くできているという

のが共通の意見である。この案を私たちの意見としてよろしいか。

(拍手)

では、生涯学習審議会としてもこの「(仮称)千葉県立図書館の今後の在り方」を応援したいと思う。

委員

皆さんの意見を聞いていて、これだけは伝えたいということは、優先順位の問題である。これだけの盛りだくさんのことがあるということですが17ページまでに書かれていることは、県立図書館はすでに実施していて、それをもっと強化していく姿勢が大切である。お金のかかる中央図書館の整備やハイブリッドとかはこれから取り組むことであるが、すでに県立図書館が先進的に取り組まれているところがあるのでお伝えする。

それからもう一つ、地域分担から機能強化へということで、県立図書館全体の機能強化を図るということだが、東部図書館では、地域の小規模図書館や未設置市町村を見るところや、西部図書館は東葛地域の進んだ図書館を見ることを併せ持ちながらやっていただけたらありがたい。

事務局

「千葉県立図書館の今後の在り方」についてはこの形で進めさせていただきたいが、将来を見据えた場合に3館の必要性について、将来の展望について皆様のご意見をお伺いしたい。

委員

5～6年後、10年後を見通しても、これから先に違うところにつくるのは難しいと思う。西部図書館や東部図書館の地域に根差して機能している部分もあるので、それをやめて2館や1館にするのは、県全体としてサービス低下になってしまう。しかし中央図書館に機能を集中していくという考え方もあると思うので、その体制が変わることはあったとしても、3館の体制は先を見通しても残して欲しいというのが市町村立図書館の希望である。

委員

私も同じ意見である。県の財政上の都合で市町村に移譲したりということをつくさん経験し、大変くやしい思いをしている。たとえば現代産業科学館を市川市に移譲するという話があったが、それではこれまでの県教育委員会の考え方は何であったのか、科学教育はどこに持っていくのか、あの施設を企業も応援しているのに、そういうことを考えずに財政上の理由だけやるのはおかしいとこの会議でも発言したことがある。図書館をもう一回作れと言ったら財政上絶対にできない。今これだけ必要性があればどんな無理をしてもやるべきだと思う。先ほど会長からもあった指定管理の話にみんないってしまう。レファレンスサービスとか司書の養成とか子どもの読書とかIT化とか必要だとわかっていても、どのくら

いの時間がかかるのか他の部局にいるとわからない。そこを知らしめないと統合という案は簡単にでてくる。そういったことを考えて先に手を打つことが必要だと思う。

#### 委 員

今回、私どもの市でも図書館が2つ、図書室が2つあり、各図書館で分類の方法が違っていたが、今回、どこの図書館にどんな本があるか市民が自宅から検索できるようになる。それができると県立図書館や近隣の図書館にもアクセスできるようになる。互換性が必要となるが、何かにつけて県に電話して聞けるようなシステムがあると有難い。県と市町村とが二人三脚でお願いしたい。

#### 委 員

要望とは違うが、IT化について出版社が過渡期になっている。紙で出版するものをデジタル化する方向性を模索していて、5～6年後には紙とデジタルの両方で出版する方向性が決まっているだろう。その時に図書館は紙で置くのでしょうか、今後は統合とか残すという以外に、データセンターのような役割も必要ではないか。これは千葉県の問題ではなく、出版社の影響を受けると思うのでその視点は残しておいた方が良いのではないか。

#### 議 長

3その他はないということで、以上で議事を終わります。

#### 事務局

議長ありがとうございました。それでは事務局より連絡させていただきます。

次回の審議会・委員会議については、10月から11月を目途に調整していきたい。今後の在り方のスケジュールですが、本日、皆様からいただいたご意見をもとに修正をくわえ、パブリックコメントで県民の方のご意見を聞き、9月の定例教育委員会議で議決後、次回の審議会で報告をさせていただきます。

#### 5 閉 会